

(技術名) 「ソフトタッチ」の適正果実重を確保するための花芽誘導処理の条件							
(要約) 生食用パインアップル品種「ソフトタッチ」の促進夏実体系において、 <u>花芽誘導処理時の最大葉長</u> が長い株ほど、果実が重くなり、最大葉長 100cm 以上で最も重くなる。また、10 月上旬に花芽誘導処理した果実は他の時期に花芽誘導処理した果実より重くなる。							
農業研究センター石垣支所					連絡先	0980-82-4067	
部会名	果樹	専門	栽培	対象	パインアップル	分類	指導
普及対象地域							

[背景・ねらい]

八重山地域における生食用パインアップル品種「ソフトタッチ」は、主に 10 月から 11 月の花芽誘導処理により 4 月から 5 月に果実を出荷する促進夏実体系で栽培される他、一部は冬場の低温で自然出蕾する自然夏実体系で栽培される。このうち促進夏実は自然夏実より果実重が軽くなりやすく、買取価格の低下や規格外果実の発生が問題となるが、花芽誘導処理時の草本特性や処理時期が果実重に与える影響は明らかでない。

そこで、本研究では、促進夏実において、適正な果実重（冠芽込み重量 500g 以上）を確保するための花芽誘導処理時における最大葉長や花芽誘導処理時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 花芽誘導処理時において最大葉長 100cm 未満の株では、最大葉長の長い株ほど果実が重くなる。一方、最大葉長 100cm 以上の株では、果実重に差がない（図 1）。
2. 果実重は花芽誘導処理時期により異なる。10 月上旬に花芽誘導処理した果実の重さは自然夏実と同程度で、10 月中旬から 11 月中旬にかけて花芽誘導処理した果実より重い（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本技術は、普及指導員または営農指導員が花芽誘導処理を指導する際に活用できる。
2. 本技術は、農業研究センター石垣支所において、2014 年から 2023 年に収穫した果実のデータ解析結果である。
3. 花芽誘導処理は、前年定植された夏植え株に対する 3 % 尿素含有エテホン 1,000 倍希釈液 30mL の葉芯灌注により行う。
4. 自然夏実については、収穫前々年 8 月に定植した夏植え株から収穫している。
5. 促進夏実では花芽誘導処理時、自然夏実では環境要因により花芽誘導される収穫前年 12 月に、供試株の最も長い葉の長さを最大葉長として計測している。
6. 系統出荷において、「ソフトタッチ」の冠芽込み重量 500g 未満となる果実については、規格外果実として取り扱われる。

[具体的データ]

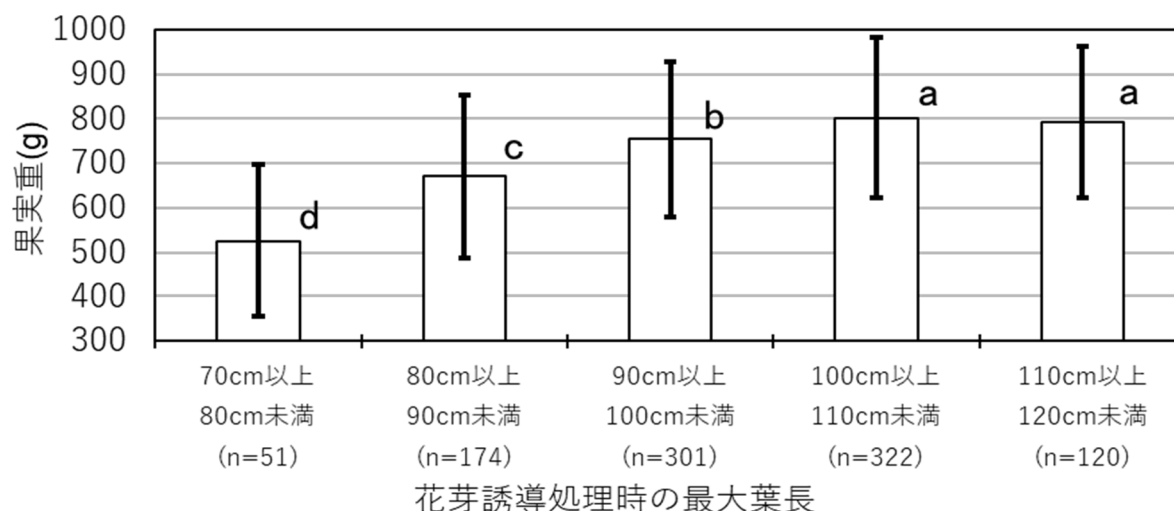


図 1 花芽誘導処理時期における最大葉長ごとの果実重

注) 同一符号を有さない処理間には有意差あり (最大葉長および花芽誘導処理時期を説明変数、調査年をランダム効果とした線形混合モデルにあてはめ、最大葉長について Tukey 多重比較を行った ($P < 0.05$))。

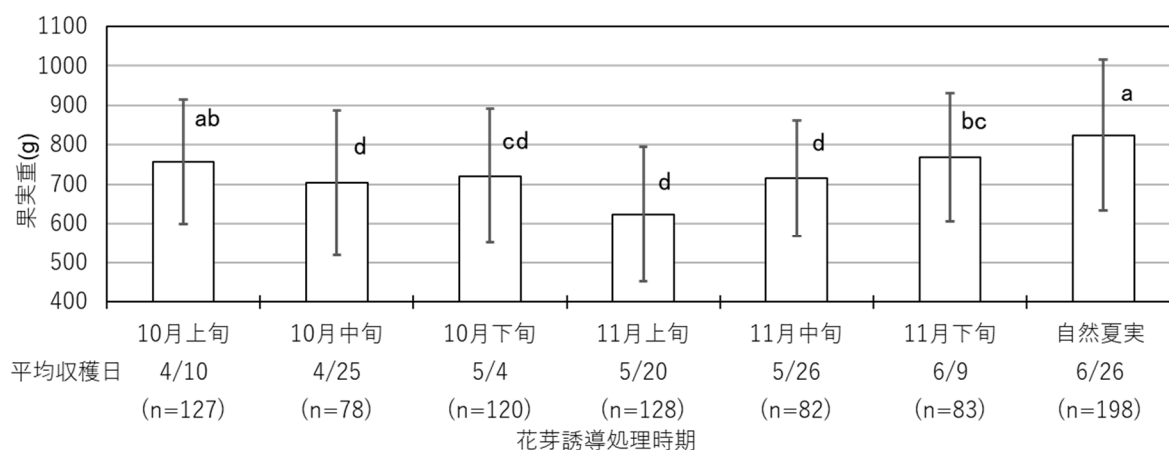


図 2 花芽誘導処理時期ごとの果実重

注 1) 各処理時期における花芽誘導処理時の平均最大葉長は 100cm 前後となる

注 2) 同一符号を有さない処理間には有意差あり (花芽誘導処理時期および最大葉長を説明変数、調査年をランダム効果とした線形混合モデルにあてはめ、花芽誘導処理時期について Tukey 多重比較を行った ($P < 0.05$))。

[その他]

課題 ID : 2013 農 003、2019 農 001、2022 農 012

研究課題名 : 気候変動に対応した沖縄型果樹農業技術開発事業

気候変動対応型果樹農業技術開発事業

生食用パインアップル「沖農 P19」等における高品質安定生産技術の確立

予算区分 : 沖縄県特別推進交付金 (気候変動対応型果樹農業技術開発事業、気候変動に対応した沖縄型果樹農業技術開発事業)

県単 (生食用パインアップル普及促進事業)

研究期間 (事業全体の期間) : 2014～2023 年度 (2014～2024 年度)

研究担当者 : 與那覇至、武末翔馬、仲村昌剛、東嘉弥真勇人、宮里進

発表論文等 : なし